

愛知母乳の会 ニュースレター

2012年 4月 vol 11



運営委員長あいさつ
平成 23 年度会計報告並びに事業報告
平成 24 年度事業計画
第 12 回総会案内
入会案内ほか

愛知母乳の会 運営委員長挨拶

運営委員長 柴田金光

昨年は、3月11日に発生した「東日本大震災」を契機に、災害時における母乳支援について取り組みました。しかし放射能汚染の問題も加わり完全な復興には何十年も要するといわれています。災害時であろうとなかろうと地道な母乳育児支援を途切れることなく持続させていくことが一番大事ではないでしょうか。一時盛り上がることは容易です。しかし持続することは困難です。



当会も結成後10年以上たち、活動もマンネリ化して沈滞気味になっているかもしれません。石澤先生が新たに運営委員に加わっていただき、新鮮な風が吹き込みました。また新しい試みとして運営委員それぞれが、母乳育児への思いなどについて、100字以内のごく短い文章、あるいはおっぱい川柳を書こうということになりました。私は川柳を書いてみました。私の母乳育児に対する思いが込められておりここにご紹介します。

①どの子にも 命の絆 母の胸 <どのこにも いのちのきずな ははのむね>

②乳出ずも 子への思いが 真の乳 <ちちでずも こへのおもいが しんのちち>

まずはハグすること。母が子を胸に抱きしめることが、母乳育児への第一歩。母乳育児ができれば幸いであり、だからこそ私たちは母乳育児を支援しているのですが、母乳の出ないお母さんはダメかといううとそうではありません。母乳育児は目的ではなくより幸せな親子の絆を築く最も有効な手段です。母乳の出ない母が、何とかしたいと子を思い行動することが、母乳の出ることに感謝なく、ただ与えているだけの母に勝ることは大いにあり得ます。いずれにしろ、育児をつらいこと、苦しいことではなく楽しいこと、幸せなことと母乳育児を通して感じて頂けることが関わる者の最高の喜びです。

母乳育児をする当のお母さん方は、人生のほんの一時期だけを母乳育児に取り組みます。ほんの一時期だけれども、この時期が母児としての絆を築くスタートの大切な時期であるために、出産・児の成長に常にかかわっている助産師、産科医、小児科医、志ある先輩お母さんたちが単なる仕事を超えた熱意で取り組む価値と意義があります。そんな価値と意義を少しでも多くの方と分かち合いたいと、当会では今年度の総会で『母乳育児を勧めるためには、広げるためには』のテーマで齊藤麻紀子さんの講演を、次に定期学習会では『母乳育児の最新事情について』の演題で瀬尾先生の講演を予定しています。

講演を聞かれた方が、そこで終わるのではなく一人でも当会に参加していただき一緒に活動していただけることを願っています。

平成23年度会計報告

項目	収入	支出	残
繰越	861,562		861,562
年会費	308,000		1,169,562
総会収入	0		1,169,562
学習会収入	72,000		1,241,562
雑収入	207		1,241,769
総会費用		133,324	1,108,445
懇親会		0	1,108,445
子育てフェスティバル		0	1,108,445
定期学習会		163,939	944,506
小学習会		0	944,506
ニュースレター		16,948	927,558
会議費		31,180	896,378
事務費・その他		205,260	691,118

平成23年度事業報告

1. 第11回 総会

日 時： 平成23年 5月22日（日）

場 所： 豊田厚生病院 講義室

講演会： 参加者 79名

テーマ 「股関節脱臼や扁平足など普段かかわりの多いことについてのお話」

講 師 和田 郁雄 先生

(名古屋市立大学医学部 整形外科 リハビリテーション部 教授)

2. 学習会その他

1) 定期学習会

日 時： 平成23年10月30日（日）

場 所： 名古屋大学医学部保健学科 東館 大講義室

参加者： 48名

報 告 「インドネシアにおける母子保健」 講師 志原奈津子（山田産婦人科助産師）

「小さなクリニックでの災害対策」 講師 ごきそクリニックスタッフ

講 演 「震災と母乳育児」 講師：関和男先生（横浜市立大学付属市民総合医療センター准教授）

平成24年度 事業計画案

1) 総会・講演会(平成24年5月27日(日)開催)

2) 定期学習会(毎年秋期開催)

3) 小学習会



平成 24 年度 総会・講演会のご案内

日 時 平成 24 年 5 月 27 日 (日)
12:30 ~ 16:00

場 所 名古屋市立西部医療センター 2階大ホール

総 会 12:30 ~

講 演 会 13:00 ~ 14:30
テーマ『母乳育児を勧めるためには、広げるためには』
講 師 齊藤麻紀子氏 (旧姓 熊手)

シンポジウム 14:40 ~ 16:00

講演会参加費 無料



(別紙 ご案内あり)

○総会の講演会に参加して

天白助産所・助産師 岩本美佐子

<新築の病院の快適な会議室で>



心地よい椅子に座り、照明が落とされるといつもならず眠気が、ところがこの日の講演は頭脳全開で聞くことが出来た。整形外科的知識は久しく学習することがなかったが、頭の向き癖、外反足、内反足、股関節、指の形、私が母子訪問先で日常的に遭遇するものばかり。どれだけ役に立った



ことか。これからは自分が整形外科の先生のような気分だ。ガニマタがなおっていく様子など「ほとんどは成長をみていくだけでよい」との和田先生の言葉にこれでお母さんたちを安心させることができると強く思った。「災害時の母子支援」の講義では震災直後の助産師会のMLで例の使い捨てミルクが話題になっていたのでますます脳に血流を増やして聞いた。届いた“善意”のミルクをどう扱うか。遠い被災地でなく自分のいるところが災害に出会ったら、誰でも使わないなんてもったいないと思うし、支援物資へのメディアの目はきびしい。被災のショックで母乳が出なくなることは容易に想像できる。そこにミルクが届けられたら誰でも手を伸ばすだろう。だからふだんから「母乳は危機管理の第一歩」ぐらいにみんなが意識を高めておかねばいけない。「母乳の会」やJALCの研修会で今までにくり返し聞いてきたことは人類をこれだけ繁栄させた母乳力。難破船で女性の母乳が多くの人を生還させた実話など記憶に鮮明に残っている。「危機の現場では赤ちゃんは母乳で命を守られる」ことをお母さんに伝え、寄り添い、励まし、母乳量が落ちないケアをすることが「母乳の会」会員に求められる仕事である。もし山積みのミルクの支援物資がそばにあったら、瀬尾先生のように毅然と「それは(大きな)子どもさんやお母さんが飲むといいですよ」ときっぱり言えるように訓練しておかないといけないと思った。



○平成 23 年度定期学習会に参加して

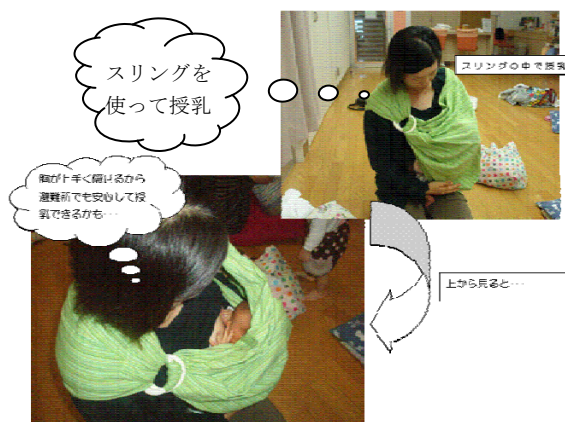
名古屋市立西部医療センター 長沼 静加

10月30日に行われた愛知母乳の会、定期学習会に参加してきました。内容は「インドネシアにおける母子保健」、「小さなクリニックでの災害対策」、「震災と母乳育児」についてです。

「インドネシアにおける母子保健」では志原助産師の青年海外協力隊としての活動や現地での母子保健の現状についてなど貴重なお話をきかせていただきました。日本で育った私にとって、この環境が当たり前とってしまうことが多いですが、世界の国々に目を向ける必要性を感じました。

「小さなクリニックでの災害対策」ではごきそレディスクリニックでの災害対策についてスタッフの方からお話をきかせていただきました。東日本大震災を受けて、日常からの災害対策に力をいれる重要性を感じました。日頃からの必要物品の確保、点検を怠らないこと、災害時に具体的に誰がどの役割をもって行動するのかということを確認しておくことが大切だと感じました。また、避難所での生活に役立つよう、スリング（人目を気にせず授乳可能）やお水でとけるミルクなどがあることを知りました。今回の震災では必要物品の不足をよく耳にしました。個人としても災害時に必要なものを常備しておくことの大切さを感じます。

そして、小児科医である関先生からは「災害と母乳育児」について講義をしていただきました。東日本大震災では自然災害、人為災害の他にそれらが合わさった複合災害、すなわち母乳で育てている母親たちへの二次的災害があったことを知りました。災害時には母親が不安・ショックであるとともに赤ちゃんも不安定になりそれを支援する医療スタッフの協力が重要であると感じました。不安定な環境の中で一時的に母乳の出が悪くなってしまった母親もいたそうです。母乳育児を中止する必要のない母親が、誤った情報や不安のために母乳育児を中止していった。そんな中、皆に液体ミルクを配っていた現状から、すべての母親にミルクを配るのではなく、ミルクが必要であるかどうかを見極めサポートしていくことの大切さを述べられていました。東海エリアでも近々大地震が発生することが予測されていますが、そのような事態が生じたときに自分は助産師としての意識を持ち、少しでも被災者の方々の力になれるのかな…？と考える機会となりました。日頃からこのように災害について考える機会をもち、いざという場面を想定することの大切さを感じます。このような学習会を開催してくださったスタッフ、講演者の方々に感謝いたします。そして東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様とそのご家族に心よりお見舞い申し上げます。





HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）感染について

おっぱいを薦める施設や九州沖縄地方では語りつくされたテーマですが、23年4月から公費補助で妊婦さん全員をスクリーニングできるようになり、またトピックスとして取り上げられています。実は対策を講じてきた、九州沖縄では患者数は減少傾向にあります。全員検査となり、全国での報告が相次いでいます。検査をしたけれど、うまくお母さんや家族に説明できない施設が増えてきていることが問題とされています。「あなたは大丈夫ですか？」

HTLV-1はおっぱいを通じて垂直感染し潜伏期間40年から60年後に5%の人が発症し、治療方法がなく半数の人が発症1年で亡くなるというミゼラブルな感染症です。慌てないでほしいのですがスクリーニング陽性妊婦さんにはもう一度ウェスタンブロット法での再検が必要です。疑陽性も多いのできちんと結果が出てからの説明が必須です。私は産婦人科医ですからまず、おかあさんにHTLV-1抗体陽性の場合「将来不治の白血病になるかもしれない」事を伝えなくてはなりません。しかし最近がんワクチンの開発が確実にすすんでいます。市立大学病院と阪大病院が共同研究しています。いつかあなたが白血病になったとしても治療が可能になることもありえることを伝えられるようになりました。少しお話しやすくなりました。

おっぱいを薦める先生として授乳期間と感染率の話もします。人工乳のみでも3%（子宮内感染、産道感染説）3ヶ月までの短期授乳でも3%（おっぱいの中和抗体への効果を期待しています）冷凍母乳（家庭用の冷凍庫でも可）で3%、6ヶ月を超えると20%の感染率になります。私は、おっぱいのすばらしさをお話して3ヶ月直接授乳を楽しんでもらっています。3ヶ月目に卒乳するかはお母さんや家族との話し合いです。3ヵ月後に卒乳するのに「無理しておっぱいを飲ますなんて」といわれる家族にはおかあさんのこれからの育児への自信の為にも3ヶ月直接授乳を勧めています。卒乳のお手伝いは産婦人科医なのでお薬でサポートできます。赤ちゃんも意外とあっさり卒乳してくれるケースがほとんどです。その日のために育メン（夫教育）作りも欠かせません。

一番大切なことはどんな方法の栄養を選択されてもお母さんと家族に添っていくことです。人工乳を選択された時も「辛い選択をされましたね。」とねぎらいと「抱っこして見つめて赤ちゃんにミルクを上げる方法」を伝えてあげてください。栄養方法がおっぱいでも人工乳でも「だっこ。語りかけ」が一番です。赤ちゃんが3歳になったとき小児科で抗体をチェックしてもらいますが、そのおりもし抗体陽性でもお母さんが攻められないよう夫教育が必須です。だっておっぱいをあげなくても3%は感染の機会があったからです。

もうひとつ、実はHTLV-1の2割が性行為感染なのです。夫との性行為がなくならないよう、第2子希望まではコンドームの使用を、そして夫がもし罹ったとしても「30歳で移っても60年後は90歳寿命だよ」と追加説明をします。家族の絆作りのサポートも産科医療機関のスタッフの醍醐味ですよ。STDですからパパからママへの感染のほうが実は多いのです。

私たちに大切なことはいたずらにおかあさんや家族を心配させないことです。薬もそうですが、「やめてしまえ」という指導は簡単です。どうぞちゃんと知識とデータを持っておかあさんと赤ちゃんを守ってあげてください。（文責；ごきそレディスクリニック産婦人科医小川麻子）

川柳

《何よりの じしん対策 母乳です》

妊娠した女性の98%が望んでいる母乳育児。

わずかなコツや知恵を活かして乗り越えると、母子の自信を育てます。また、去年の3.11が教えてくれたように地震などの災害では母子を救います。(鈴木和代)

《子のために 父には出せぬ 母の乳》

《できること 何より先に 母の乳》

《母の技ポジションにラッチオン》

(柴田金光)

《3歳で 乳飲むは変?と 子に訊かれ》

当然と思っている、わが子たちです・・・3歳で飲んでいるのは、変なの?ときかれました。(金森あかね)

《添えちちで 母と子眠る 寒の夜》(新實房子)



短歌

《今年こそ 愛知の母に 伝えたい 母乳育児の 楽しさを》(熊谷千景)

エッセイ

《原始人だったら?》

母乳の勉強を始めてから(医師になってもう10年ほどたっていましたが)、私はよく、「もし私が原始人だったら、どんな子育てをしているんだろう」と想像するようになりました。もし原始人だったら、生まれたての赤ちゃんは母乳しか飲むものはなかったでしょう。もし原始人だったら、赤ちゃんはお母さんと離れてしまうと寒さに耐えられないでしょうし、他の動物に食べられてしまったかもしれません。自分が子どもを産んだとき、どうしてこんな簡単なことに気づいていなかったのでしょうか。何だかもったいないことをしてしまいました。(張尚美)

《南三陸町で被災した友人》

小学校2年生、年中、2歳(卒乳前)の三人の娘と小学校に避難し真っ暗な校舎で一夜を過ごしました。発生後48時間で支給されたものはおにぎり一つ。極度に緊張した子ども達はそれも吐いてしまいます。その時彼女は「いざとなったら3人ともお母ちゃんのおっぱいあげるから、心配しなくていいからね!」と三人を抱きかかえて乗り切ったそうです。

おっぱい最高!!! (石澤芳子)

《薬を飲んでも母乳はあげられます》

お母さんが薬を使っても、母乳から出る薬の量はわずかで、赤ちゃんには影響がありません。愛知県薬剤師会のウェブサイトから「妊娠・授乳と薬」をクリックすると情報が得られます。(瀬尾智子)

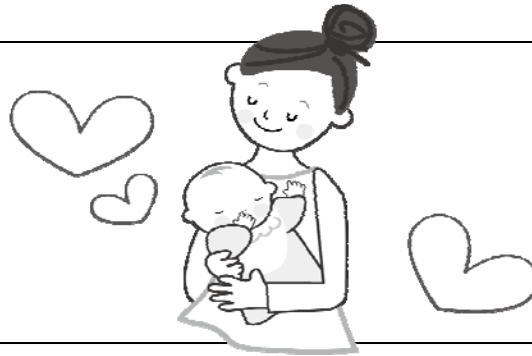
入会のご案内

会員区分	年会費	備考	ホームページ紹介
A 会員	100,000	総会参加費職員、妊産婦無料	あり
B 会員	50,000	総会参加費職員のみ無料	あり
C 会員	5,000	-	あり
D 会員	1,000	-	なし

年会費および講演会費は前もってお振り込みください。(5 / 19 (土) まで)
振り込み口座番号 郵便局 00860-6-96095 振込先 愛知母乳の会

編集後記

東日本大震災から1年がたちました。母子にとってもまだまだ、不安な日々が続きます。愛知母乳の会では引き続き被災された母子や家族に子育て支援を通してお役に立てるように今年も協力していきたいと考えています。



[mamma@aichi - bonyu.jp](mailto:mamma@aichi-bonyu.jp)

FAX 0563-54-5373

ホームページ [http://www.aichi - bonyu.jp/otoi.html](http://www.aichi-bonyu.jp/otoi.html)

発行：愛知母乳の会